

OB・OG活動紹介

演奏活動、CD寄贈、 ドッキングコンサート について



● 病院でのコンサートの様子

私が青年海外協力隊員としてコスタリカに滞在したのはもう30年以上も前のことですが、昨年10月リリースのCD「マリンバの贈り物 パート2～星降る夜に～」の紹介をSpring board No.68 に掲載していただいたことがきっかけで、この度、私の現在の活動について書かせていただくことになりました。

私はマリンバ奏者として活動しております。私は、生きた演奏は、障害のある無しにかかわらず、すべての人々にとって『不可欠なもの』のひとつと考えております。近年、わが国でもノーマライゼーションが言われて久しいのですが、障害のある方々が通常の演奏会場に足を運ぶのには、交通の便、そのほかいろいろな面で難しいのが現状です。『わが子連れで行きたいけれど、動いたり大きな声を出したりしてほかの方に迷惑をかけてしまうので行けません。』という声がたくさん寄せられておりました。そこで、『普段演奏会に行くことが難しい方々にマリンバを聴いていただく』というのがライフワークの一つになりました。1986年以来毎年12月には、養護学校および近隣施設においてクリスマスコンサートを行っております。また、そのほかの時期にも特別養護施設、病院等々で演奏するようになりました。

しかし、実際には時間的、物理的な制約があって、コンサートの開催はなかなか難しいので、こどもたちに、せめてCDだけでも聴いていただけたらと考え、1998年にリリースした最初のCD『マリンバの贈り物～クリスマスの日～』を紹介し、希望のあった特別支援教育諸学校（盲・聾・病弱・養護学校）400余校に寄贈させていただきました。たくさんの方から反響がありました。「音楽の授業で、また、昼休みにかけています。」「こどもたちの知っている曲がマリンバで弾かれていて、みんなとても喜んでます。」等々。また、CDをきっかけにいくつかの学校で演奏させていただくことも実現しました。

そして、昨年10月には、冒頭に書きましたCD『マリンバの贈り物 パート2～星降る夜に～』を、全国特別支援学校PTA連合会を通じて、全国の1060校に寄贈することが実現いたしました。前回以上に多くの学校で、たくさんの方々に私のマリンバを聴いていただくことを、大変幸せに思っております。

さて、ここでドッキングコンサートについて少し触れさせていただきます。

演奏会を通しての奏者と聴衆とのコミュニケーションは、CDでは決して生まれるものではありません。生演奏はすべてそうですが、特にマリンバの演奏は、パチの動きだけでなく演奏者が動くことが多いので、聴覚的にはもちろん、視覚的にも大変喜ばれます。その演奏会開催のために、また、作曲、編曲、共演者等々の面で質の良いものを広範囲に提供していくためには、経済的なバックアップを必要としており、前述のCDの収益金をそれに充てております。そして、ドッキングコンサートを行ってくださるスポンサーを探しております。

ドッキングコンサートとは、スポンサー〔ロータリー・ライオンズクラブ等、同業者の会（医師会等）、教会、大学、小・中・高等学校、教育委員会、個人ほか〕の指定する場所で通常のコンサートを有料で行い、その前後の日などに、その会場周辺の施設や病院等でコンサートを無料で行うというものです。

趣旨をご理解くださいますなら、どうぞ各団体等の総会などでこのドッキングコンサートのアイデアを宣伝していただければ幸いです。なお同コンサートの詳細については、私あてに

お問い合わせください。

最後に。ある時、「学生向けに明瀬さんのボランティア活動について書いてほしい」と依頼されて、『ボランティア活動なんかやっていない。好きでマリンバを奏しているだけです。』と答えたところ、「自分にできることをやるのがボランティア活動につながるのだから」と言われたことがあります。

考えてみると、30年前にコスタリカに行ったのも、（協力隊隊員当時、自分がボランティアという気持ちはほとんど無かったのですが、）その後の活動も、自分では気がつかないけれども、ずっとボランティアとかかわりがあるのかなぁ、とも思えてきます。

いつか、皆さんがこのような考え方の私の演奏やCDを聴いてくださることを願っております。

ありがとうございました。

akase3y1h@ybb.ne.jp

明瀬 由武（アカセ ヨシタケ）

（52年度1次隊後期、コスタリカ、音楽）



● 学校でのコンサートの様子